

作成日 2011年8月17日
改定日 2011年11月17日

製品安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名	グリースサットル
会社名	ライオンハイジーン株式会社
住所	東京都墨田区錦糸1-2-1 アルカセントラル6階
担当部所	企画開発部 開発研究所
電話番号	03-3616-3159
FAX番号	03-3616-3208
緊急連絡先	03-3616-3159
製品の用途	業務用油汚れ用洗浄剤
整理番号	2007

2. 危険有害性の要約

[GHS分類]

物理化学的の危険性

火薬類	分類対象外
可燃性 / 引火性ガス	分類対象外
可燃性 / 引火性エアゾール	分類対象外
支燃性 / 酸化性ガス	分類対象外
高压ガス	分類対象外
引火性液体	区分外
可燃性固体	分類対象外
自己反応性化学品	分類対象外
自然発火性液体	区分外
自然発火性固体	分類対象外
自己発熱性化学品	分類できない
水反応可燃性化学品	区分外
酸化性液体	分類できない
酸化性固体	分類対象外
有機過酸化物	分類対象外
金属腐食性物質	分類できない

人健康有害性

急性毒性 経口	区分4
経皮	分類できない
吸引 (ガス)	分類対象外
(蒸気)	分類できない
(粉塵、ミスト)	分類できない

皮膚腐食性/刺激性

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

呼吸器感作性

皮膚感作性

生殖細胞変異原性

発がん性

生殖毒性

特定標的臓器/全身毒性(単回暴露)

特定標的臓器/全身毒性(反復暴露)

吸引性呼吸器有害性

その他の有害性

環境有害性

水生環境有毒性(急性)

水生環境有毒性(慢性)

**[GHSラベル要素]
絵表示**



注意喚起語	危険
危険有害性情報	飲み込むと有害 重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷 重篤な眼の損傷 臓器の障害のおそれ
注意書き	
予防策	保護手袋および保護眼鏡/保護面を着用すること。 粉塵またはミストを吸入しないこと。 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。 取扱い後はよく洗うこと。 口をすぐすこと。
応急措置	吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 暴露した時、または、気分が悪い時は、医師に連絡すること。 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯/汚染の除去をすること。 皮膚または髪に付着した場合: 直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと/取り除くこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。 直ちに医師に連絡すること。 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 飲み込んだ場合: 口をすぐのこと。無理に吐かせないこと。 飲み込んだ場合: 気分が悪い時は、医師に連絡すること。口をすぐのこと。
保管	
廃棄	内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に廃棄を委託すること。

3. 組成・成分情報

単一化学物質/混合物の区別	混合物
化学特性	アルカリ性液体洗浄剤

成分及び濃度

化学名	水酸化ナトリウム	水酸化カリウム
CAS No.	1310-73-2	1310-58-3
含有量(%)	1~5%	1~5%
官報公示整理番号(化審法)	化審法 1-410	化審法 1-369

4. 応急措置

吸入した場合	被災者を空気の新鮮な場所に移動させ安静にし、直ちに医師の処置を受ける。必要に応じて、人工呼吸や酸素吸入を行う。
皮膚に付着した場合	直ちに多量の水で洗い流し、速やかに医師の処置を受ける。
目に入った場合	この製品が目に入った場合、一刻も早く洗浄を始め、入った製品を完全に洗い流す必要がある。洗浄を始めるのが遅れたり、不十分であると不可逆的な目の損害を生じるおそれがある。
飲み込んだ場合	水で口の中を洗浄し、コップ1-2杯の水または牛乳を飲ませる。直ちに医師の処置を受ける。必要に応じて、人工呼吸や酸素吸入を行う。 無理に吐かせないこと。 酸で中和しようとしてはならない。
応急措置をする者の保護	救助者はゴム手袋と密閉ゴーグルなどの保護具を着用すること。

5. 火災時の措置

消化剤	粉末消火薬剤、水溶性液体用泡消火薬剤、二酸化炭素、砂、霧状水 この製品自体は、燃焼しない。
使ってはならない消火剤	特に無し

火災時の特有の危険有害性	特に無し
特有の消火方法	速やかに容器を安全な場所に移す。移動不可能の場合は、容器及び周辺に散水して冷却し、容器の破損を防ぐ 火元への燃焼元を断ち、適切な消化剤を使用して消火する。 消火作業は、風上から行う。
消火を行う者の保護	消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	漏出時の処理を行う際には、必ずゴム手袋、保護眼鏡、保護衣等を着用する。 漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立入を禁止する。 風上から作業し、風下の人を退避させる。
環境に対する注意事項 封じ込め及び浄化の方法	漏出物を直接河川や下水に流してはいけない。 少量の場合は、吸着剤(おがくず、土、砂、ウエス等)で吸着させて、密閉できるから容器に回収する。 本製品は強アルカリなので、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから処理する。必要であればさらに希塩酸、希硫酸等で中和する。下水溝、表流水、地下水に流してはいけない。
二次災害の防止法	付近の着火源となるものを速やかに取り除くとともに消火剤を準備する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策	取扱い場所の近くに、緊急時に洗眼および身体洗浄を行うための設備を設置する。 取扱いの都度、容器を密閉する。 目、皮膚、衣類に付けないこと。 保護手袋および保護眼鏡/保護面を着用すること。
局所排気・全体換気 注意事項	取扱う場合は、局所排気内、または全体換気の設備のある場所で行う。 キャップを開ける時は原液が飛び出さないように注意する。また、容器を移動する時は、キャップをしっかりと閉める。 他の薬剤、洗浄剤とは混ぜない。 他の容器に移し替えて使用しない。 使用済みの空容器はよく洗ってから処理する。 用途以外に使用しない。 子供の手の届かない場所に保管する。 アルミ、すず、亜鉛等の金属を腐食して水素ガスを発生し、これが空気と混合して引火爆発があるので、接触させない。
安全取扱い注意事項	アルカリ性なので、酸性の製品との接触を避ける。

保管

技術的対策	換気のよい場所で容器を密閉し、直射日光や高温多湿の場所を避けて保管すること。
適切な保管条件	屋内保管を行う。水、雨の濡れに注意する。破袋を防ぐため乱暴な取扱いは避ける。横に倒して保管しない。子供の手の届くところに保管しない。 酸性物質と一緒に保管しない。
安全な容器包装材料	製品使用容器に準じる。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策

取扱い場所の近くに、目の洗浄及び身体洗浄のための設備を設置する。
直接取り扱う場所では局所排気装置を稼動させ、換気を良くする。

設定されていない。

(NaOHとして)

(2005年度版)最大許容濃度 2 mg / m³

(2005年度版)TLV-STEL 2 mg / m³(天井値)

(KOHとして)

管理濃度

許容濃度

日本産業衛生学会

ACGIH

(2005年度版)最大許容濃度 2 mg / m³
 (2005年度版)TLV-TWA 2 mg / m³(天井値)

保護具

呼吸器の保護具	通常の取扱いでは特に必要はない。
手の保護具	不浸透性(耐薬品、耐油、耐溶剤)保護手袋
目の保護具	保護眼鏡、保護面
皮膚及び身体の保護具	長袖作業着、保護衣、ゴム前掛、保護長靴
適切な衛生対策	清潔な作業服、帽子、安全靴等を着用。

9. 物理的及び化学的性質

外観	淡黄色液体
臭い	弱い特異性の匂いがある
pH	11.8 (0.2%水溶液、25 ℃)
融点/凝固点	データなし
沸点、初留点と沸騰範囲	データなし
引火点	なし
自然発火温度	なし
燃焼性	データなし
燃焼又は爆発範囲	データなし
蒸気圧	データなし
蒸気密度	データなし
蒸発速度	データなし
比重	1.11 g / cm ³ (25 ℃)
溶解性	水に易溶
オクタノール/水分配係数	データなし
分解温度	データなし
その他のデータ	

10. 安定性及び反応性

安定性	熱、光、衝撃に対して安定である。但し、40 ℃以上の高温及び、直射日光下での長期放置は品質劣化を起こすので避けること。
危険有害反応可能性	強アルカリ性の為、酸性物質と接触すると激しく中和反応・発熱反応を起こす。アルミニウム、すず、亜鉛等の金属を腐食して引火性の水素ガスを発生する。
避けるべき条件	酸性物質との接触
混合危険物質	酸性物質
危険有害な分解生成物	なし
その他	なし

11. 有害性情報

急性毒性 (経口)	(製品のデータ) データなし (成分のデータ) ウサギ LD ₅₀ 325 mg/kg(固体水酸化ナトリウム) ²⁾ ヒトでの中毒事例により、ヒトの体重を60 kgとすると致死量は80 mg/kg ~ 167 mg/kgとなる。 (固体水酸化ナトリウム) ²⁾ priority 1に記載されているサット LD ₅₀ 284 mg/kg(水酸化カリウム) ⁵⁾
急性毒性 (経皮)	データなし
急性毒性 (吸入:ガス)	データなし
急性毒性 (吸入:蒸気)	データなし
急性毒性 (吸入:粉塵、ミスト)	データなし
皮膚腐食性/刺激性	(製品のデータ) データなし (成分のデータ)

ヒト皮膚に対して0.5%以上で刺激性を引き起こす。ブタ皮膚に対して8%以上で腐食性を引き起こす。²⁾ウサギ皮膚に対して5%、4時間で重度の壊死を引き起こす。(水酸化ナトリウム)³⁾
ウサギによる試験で腐食性、ヒトに対して腐食性の記載があり、国連分類クラス国連分類クラス8、容器等級に分類されている。(水酸化カリウム)⁶⁾

眼に対する重篤な損傷/刺激性 :	(製品のデータ) データなし (成分のデータ) ヒト眼に対して重篤な損傷を引き起こす。 ³⁾ ウサギ眼に対して1.2%以上で腐食性を引き起こす。(水酸化ナトリウム) ²⁾ ヒト眼に対して不可逆的な傷害があり、ウサギ眼の試験で腐食性の記載がある。(水酸化カリウム) ⁶⁾
呼吸器感作性又は皮膚感作性 :	データなし
生殖細胞変異原性 :	(製品のデータ) データなし (成分のデータ) データなし
発がん性 :	(製品のデータ) データなし (成分のデータ) IARC 73(1999)に、実験動物では発がん性が認められるものの、ヒトでの発がん性に関しては十分な証拠がないとの記載がある。(ニトリロ三酢酸及びその塩) ⁴⁾
生殖毒性 :	データなし
特定標的臓器毒性(単回暴露) :	(製品のデータ) データなし (成分のデータ) ヒト呼吸器、気道を刺激し肺水腫を引き起こす。(水酸化ナトリウム) ²⁾ 粉塵又はミストを吸入暴露すると鼻、気管気管支に熱傷等の障害を起こし、肺水腫にまで至る記載がある。(水酸化カリウム) ⁶⁾
特定標的臓器毒性(反復暴露) :	(製品のデータ) データなし (成分のデータ) データなし
吸引性呼吸器有害性 :	(製品のデータ) データなし (成分のデータ) 吸引により肺炎で死に至るの記載がある。(水酸化カリウム) ⁷⁾
その他の情報 :	

12. 環境影響情報

生態毒性	: 魚類(カダヤシ)LC ₅₀ (96h) = 125mg/L、甲殻類(ネコセミシンコ)LC ₅₀ (48h) = 40.4mg/L(水酸化ナトリウム) ²⁾
残留性/分解性	: BOD2mg/L以下、COD36mg/L(0.2%溶液) ¹⁾
生体蓄積性	: データなし
土壤中の移動性	: データなし
他の有毒影響	: データなし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	: 都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託処理する。
汚染容器・包材	: 空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分する。

14. 輸送上の注意

国際規則	:
国連分類	: クラス8(腐食性物質) : クラス8(腐食性物質)

国連番号	:	1824(水溶液)	:	1814(水溶液)
品名(国連輸送名)	:	水酸化ナトリウム	:	水酸化カリウム
海洋汚染物質	:	有害液体物質 Y類物質 施行令別表第1 226	:	有害液体物質 Y類物質 施行令別表第1 225
国内規則				
陸上輸送	:	消防法、毒劇物取締り法、高圧ガス保安法、道路法等に定められている輸送方法に従う。		
海上輸送	:	船舶法に定められている輸送方法に従う。		
航空輸送	:	航空法に定められている輸送方法に従う。		
輸送の特定の安全対策及び条件	:	輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。転倒、落下、破損がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。		

15. 適用法令

消防法	:	非危険物
労働安全衛生法	:	第57条の2(通知対象物 319:水酸化ナトリウム、316:水酸化カリウム)
毒物及び劇物取締法	:	該当しない
化学物質排出把握管理促進	:	該当しない
化学物質の審査及び製造等の規則に関する法律(化審法)	:	1-410(水酸化ナトリウム)、1-369(水酸化カリウム)
船舶安全法	:	腐食性物質 危規則第3条危険物 告示別表第1
航空法	:	腐食性物質 施行規則第194条 告示別表第11

16. その他の情報

参考文献 :	1)自社データ 2)OECD Screening Information Data Set(2005) 3)PATTY s Toxicology 5th(2001) 4)IARC (1999): Monographs on the Evaluation of the Carcinogenic Risk of Chemicals to Man. Vol. 73 . (Nitrilotriacetic acid and its salts) 5)NITE 化学物質管理分野 GHS分類結果 水酸化カリウム(平成18年度) 6)OECD Screening Information Data Set(2001) 7)American Conference of Industrial Hygienists (2001)
--------	--

記載内容の取扱い :	この情報は、新しい知見に基づき改訂されることがあります。 記載内容は現時点で入手できた資料・情報・データ等に基づいて作成しておりますが、含有量、物理・化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではありません。また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものなので特殊な取扱いの場合には、用途・用法に適した安全策を実施の上、ご利用ください。
------------	---